

第3期  
八千代市保健事業実施計画  
(データヘルス計画)

ダイジェスト版

令和6年(2024)3月

八千代市



## 1. 保健事業実施計画とは

八千代市データヘルス計画ともいい、八千代市国民健康保険被保険者を対象にした計画です。健康増進(健康寿命の延伸)・医療費の適正化が目的で、国保データベース(KDB)システムから得られる医療・健診・介護のデータをもとに県や全国などと比較・分析して健康課題を抽出し、抽出した健康課題を解決に導くための保健事業を運営します。

また、市町村だけでなく、すべての健康保険組合で策定・運営することとなっています。

### ■データヘルス計画の目的

健康増進(健康寿命の延伸)

医療費の適正化

#### 生活習慣・健康状態の把握

被保険者の生活習慣や健康状態を把握するために、市の状況や健診データ、レセプトデータなどのデータ分析を行います。  
また、詳細な分析を行うためのデータ収集を目指します。

#### 分析結果からわかる課題を把握

分析結果からわかる課題を把握します。また、多方面からの意見を多く取り入れていけるように市役所内外の関係機関との連携を目指します。

#### 課題を解決に導くための事業運営

課題を解決に導くための事業を企画し、運営していきます。  
事業の運営に当たっては、関係機関と情報を共有して効果的な実施を目指します。

データヘルス計画は「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21第三次)」に示された基本方針に基づいて策定されます。また、「特定健康診査等実施計画」とは重複する部分もあるため、整合性と連携を図ります。

データヘルス計画の実施期間は、第1期が平成27年度(2015)から平成29年度(2017)の3年間、第2期が平成30年度(2018)から令和5年度(2023)の6年間、今回策定する第3期が令和6年度(2024)から令和11年度(2029)の6年間となっています。

データヘルス計画は八千代市健康福祉部国保年金課が策定・実施・見直しを行いますが、健康づくり課、福祉総合相談課などの関係部局と連携していきます。また、必要に応じて保健医療関係者や県、国民健康保険団体連合会などの外部団体とも連携・協力していきます。

さらに、国民健康保険団体連合会に設置された支援・評価委員会の支援を受けます。

参照：計画策定について（本計画P3～5）

## 2. 八千代市の状況

八千代市の人口は、令和5年(2023)3月末時点で20万4,818人となっています。「八千代市人口ビジョン(改訂版)」をもとにした推計では、今後人口は減少していきませんが、65歳以上の人口の割合を示す高齢化率は上昇していくことが想定されています。

### ■令和5年(2023)3月末時点と令和27年(2045)の人口と高齢化率の比較

	令和5年(2023) 3月末時点	令和27年(2045) 推計値
人口(人)	204,818	199,688
65歳以上の人口(人)	50,888	68,598
高齢化率	24.8%	34.4%

平均寿命は男性が81.0歳、女性が87.2歳で県や全国と比較しても大きな差異はありませんでした。

主たる死因は多いものから「悪性新生物」が50.1%、「心臓病」が30.6%、「脳疾患」が11.6%で県や全国と同じ傾向です。割合も、県や全国と比較しても大きな差異はありませんでした。

国保データベース(KDB)システムによる八千代市国民健康保険の令和4年度(2022)の被保険者数は3万3,400人、市の人口全体に占める被保険者数の割合(加入率)は16.8%となっています。被保険者数の構成割合を見ると、男女ともに65歳以上の割合が高くなっています。

参照：八千代市の概要（本計画P6～9）

### 3. 第2期データヘルス計画の取り組み

平成30年度(2018)から令和4年度(2022)まで実施した事業の評価結果を、次の表に示します。目標を達成できている事業もありますが、多くの事業で設定した目標を下回る現状にあります。そのため、第3期データヘルス計画の実施に向けて、現状に即した目標の設定と各事業の継続的な改善が必要と考えます。

#### ■第2期で抽出した課題・解決するための事業・事業実績・事業の評価

事業名	事業の目的・概要	令和4年度(2022)		事業の評価・考察
		目標値	実績	
課題1 特定健康診査の受診率は目標を達成できていない				
特定健康診査受診率向上事業	被保険者の生活習慣・健康状態を把握し、生活習慣病の発症や重症化を予防するため、特定健康診査の受診勧奨を実施します。	特定健康診査受診率 34%	31.1%	新型コロナウイルス感染防止対策の外出自粛要請等により受診控えが推測され、令和2年度は受診率が27.5%に下がりました。令和3年度以降は受診率30%以上に上昇したものの、令和4年度の目標値には届きませんでした。
課題2 特定保健指導の実施率は目標を達成できていない				
特定保健指導事業	特定健康診査の結果に基づき、生活習慣病の発症リスクが高い人に対して、特定保健指導を実施し、生活習慣の改善を支援します。実施率向上のため、初回面接の分割実施や、遠隔面接等を実施します。	①特定保健指導利用者のうち、3%以上の減量に成功した割合 27%	※	新型コロナウイルス感染防止対策の外出自粛要請やテレワークの導入等による生活スタイルの変化に伴い、食事や運動等の生活習慣改善の継続が困難だったと推測され、目標値には及びませんでした。
		②特定保健指導継続率 100% (資格喪失者や服薬開始などの事情で途中終了となった人は除く。)	※	
		③特定保健指導利用者の次年度の特定健康診査結果でBMI・腹囲のいずれかが改善した割合 75%	※	
		④前年度特定保健指導利用者のうち、特定保健指導対象外になった割合 34%	20.6%	
課題3 入院外的生活習慣病のうち、腎不全と糖尿病の医療費が高い				
糖尿病性腎症重症化予防指導事業	糖尿病患者のうち、糖尿病関連の検査項目値や治療状況から選定した対象者に対して、専門職が6カ月の面談指導と電話フォローを実施します。	検査値の改善者割合 70%	100%	対象者に合わせた形の適切な服薬管理と食事・運動等の生活習慣改善を目的とした保健指導を実施したためです。また、かかりつけ医で最終検査を実施したことが、指導前後の数値比較を評価することができ、具体的な保健指導効果の「見える化」を図ることができました。
		生活習慣の改善者割合 100%	100%	
治療中断者医療機関受診勧奨(令和3年度～)	特定健康診査未受診で糖尿病治療を中断している人に対して、受診勧奨を実施します。受診勧奨後も未受診の人で早急に受診が必要な人に対して、専門職による電話受診勧奨を実施します。	受診勧奨後の医療機関受診率 20%	28.9%	糖尿病治療を中断している可能性が高い者へ、医療機関受診の勧奨通知を送付することで治療を再開する割合が目標値の20%を超え、効果的でした。
課題4 特定健康診査の結果が受診勧奨となる値を超えていても、医療機関の受診をしない人の割合が高い				
基準値超の健診結果放置者への受診勧奨事業	生活習慣病関連の検査項目に基準値超の結果があるにも関わらず医療機関への受診が確認できない対象者に、郵便で受診勧奨を行います。	受診勧奨通知後の医療機関受診率 20%	9.2%	受診率については、新型コロナウイルス感染防止対策の外出自粛要請等による受診控えが一因になっていると推測されます。
課題5 一人当たりの医療費が年々増加している、後発医薬品(ジェネリック医薬品)普及率のさらなる向上が見込める				
ジェネリック医薬品差額通知事業	先発医薬品の利用者のうち、ジェネリック医薬品への切り替えにより医療費の削減が見込まれる対象者へ通知します。	ジェネリック医薬品普及率(数量シェア) 80%	81.1%	普及率(数量シェア)は増加傾向であり、ジェネリック医薬品を使用した場合のメリットや、安全性、処方を受ける方法等の内容を効果的に周知できました。

※は令和4年度からの追加指標のため、実績値は令和6年(2024)5月確定予定

参照：第2期データヘルス計画の取り組み状況について (本計画P10～12)

## 4. 医療・健診・介護についてのデータ分析

医療・健診・介護データを調べることができる国保データベース(KDB)システムなどを活用してデータを県や全国と比較・分析しました。八千代市の特徴を次のようにまとめました。

### (1)健康情報の分析

令和4年度(2022)の特定健康診査の結果及び過去の結果を分析しました。

健康情報の分析
<ul style="list-style-type: none"><li>・特定健康診査の受診率は31.1%で、千葉県より低い。</li><li>・県や全国より、BMIは40歳～64歳の男性を除き、低くなっているが、脂質(LDLコレステロール)は65歳～74歳の男性を除き、高くなっている。喫煙や運動の生活習慣は県や全国より良い。</li><li>・特定健康診査の受診者のうち、メタボリックシンドローム該当者は18.6%、予備群は10.9%だった。男女を比較すると、いずれも男性は女性の3倍以上である。</li><li>・特定保健指導の実施率は26.0%で、八千代市の目標値を超えて推移しているが、経年的に千葉県平均を概ね下回って推移している。</li></ul>

### (2)医療情報の分析

令和4年度(2022)の医療データを分析しました。

医療費情報の分析
<ul style="list-style-type: none"><li>・一人当たりの医療費は月額27,317円で、令和2年度(2020)以降年々増加している。年齢階層別で比較すると、55歳以上で医療費は急激に増加している。</li><li>・入院で医療費が高額な疾病は「その他の悪性新生物&lt;腫瘍&gt;」で、入院の医療費の7.7%を占めている。</li><li>・入院外で医療費が高額な疾病は「腎不全」、「糖尿病」、「その他の悪性新生物&lt;腫瘍&gt;」で、生活習慣病が起因となる疾病が多くなっている。</li><li>・「腎不全」は入院で4番目、入院外で1番医療費が高く、「糖尿病」も入院外での医療費が2番目に高い。</li><li>・ジェネリック医薬品の普及率は81.1%で、令和3年度(2021)に80.2%と国の目標(80%)を達成し、令和4年度(2022)はさらに増加している。</li><li>・特定健康診査の結果が受診勧奨領域でも医療機関へ通院していない人が比較的多い。</li></ul>

### (3)介護情報の分析

令和3年度(2021)及び令和4年度(2022)の介護データを分析しました。

介護情報の分析
<ul style="list-style-type: none"><li>・要介護認定率は17.5%で、全国より低いですが、年々増加を続けている。</li><li>・1件当たりの介護給付費は54,655円で、県や全国より低い。</li></ul>

参照：健康・医療情報などの分析（本計画P13～59）  
八千代市の現状についてのまとめ（本計画P60～62）

## 5. 健康課題から目標項目，実施事業の設定

第2期データヘルス計画の実施状況やデータ分析により，以下の健康課題に着目しました。この健康課題を解決するための目標項目を定め，実施する事業を計画しています。

第2期で計画した事業においては，保健指導を受けた人の生活習慣の改善など，実施した部分についての効果は徐々に出てきています。第3期では，第2期の事業をより分かりやすく，効果的に運営していくことを目指します。

### ■分析結果から見た課題と対策

項目	健康課題	対応する保健事業番号	データヘルス計画全体における目的
A	特定健康診査の受診率が低く，健診を契機に自らの健康状態を客観的に把握し，生活習慣を見直す機会が得られない。	①	特定健康診査の受診率向上
B	特定保健指導の実施率が低く，特定保健指導対象者の生活習慣改善の機会が得られない。	②	特定保健指導の実施率向上
C	一人当たり医療費が年々増加している。	③，④	医療費の増加抑制
D	入院外の生活習慣病のうち，腎不全と糖尿病の医療費が高い。	③	糖尿病患者の生活習慣改善
E	特定健康診査の結果が受診勧奨となる値を超えていても，医療機関の受診をしない人の割合が高い。	④	医療機関への受診勧奨
F	後発医薬品(ジェネリック医薬品)普及率のさらなる向上が見込める。	⑤	ジェネリック医薬品の普及率向上

参照：第3期データヘルス計画について（本計画P63～64）

## 6. 第3期データヘルス計画の事業計画と目標

実施する事業の概要と計画の最終目標を次のように決めました。

### ■第3期で実施する事業と最終目標

事業名	事業概要	最終目標 令和11年度(2029)目標
1 特定健康診査受診率向上事業	生活習慣・健康状態を把握し、生活習慣病の発症や重症化を予防するため、特定健康診査の受診率向上を目指します。対象者は、40歳～74歳の被保険者とします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健康診査受診率 37%</li> <li>・40・50歳代の特定健康診査受診率 23%</li> </ul>
2 特定保健指導実施率向上事業	内臓脂肪型肥満に着目し、健康的な生活を維持することを通じて糖尿病などの生活習慣病を予防するため、特定保健指導を行います。併せて特定保健指導の実施率向上を目指します。対象者は、八千代市特定健康診査の結果をもとに階層化を行い抽出します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導実施率 23.5%</li> <li>・メタボリックシンドローム該当者割合 18.0%</li> <li>・メタボリックシンドローム予備群割合 11%</li> </ul>
3 糖尿病性腎症等の生活習慣病の重症化予防指導事業	糖尿病性腎症の発症・重症化のリスクの高い人に対し、重症化を予防し、人工透析への導入を阻止できるよう保健師、管理栄養士等の医療専門職による相談・指導や健康教育等を通じて、糖尿病に関する知識や、生活習慣を改善することで人工透析への導入の延伸を図ります。また、前期高齢者のフレイル予防を主眼とした、心身機能の低下、生活習慣病等の重症化の予防に取り組みます。高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細やかな支援をするため、後期高齢者の保健事業や地域支援事業と一体的に実施することにより健康寿命の延伸を目指します。対象者は、糖尿病性腎症患者(血圧・中性脂肪・血糖が受診勧奨判定値を超えている方)とします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病の有病割合(40～74歳) 15%</li> <li>・高血圧症の有病割合(40～74歳) 24%</li> <li>・新規人工透析患者数(国保継続加入者) 9人</li> </ul>
4 基準値超の健診結果放置者への受診勧奨事業	特定健康診査の結果の中で、生活習慣病関連項目に基準値を超えている項目があった人が、早期治療へ取り組むきっかけを作ります。対象者は、特定保健指導の対象とならなかった人の中で、生活習慣病関連項目に基準値を超えている項目があり、かつ医療機関での受診が確認できない人としします。	受診勧奨対象者のうち医療機関受診割合 20%
5 ジェネリック医薬品差額通知事業	先発医薬品の利用者が、後発医薬品(ジェネリック医薬品)へ切り替えるきっかけを作り、ジェネリック医薬品の普及率向上を目指します。対象者は、先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えにより、薬剤費の軽減額が一定以上見込まれる被保険者とします。	後発医薬品普及率 80%

参照：個別事業概要、各事業の実施内容と評価方法（本計画P65～76）

## 7. 計画の評価・見直しなど

### (1) 計画の評価・見直し

各実施事業は毎年、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」(平成16年(2004)厚生労働省告示第307号)に基づき、国保連合会に設置されている支援・評価委員会の指導・助言を受けながら、事業内容の検証・評価を行い、必要に応じて実施体制(ストラクチャー)や実施方法(プロセス)の修正を行います。

また、評価指標の達成状況等について、令和8年度(2026)に中間評価を行います。

### (2) 計画の公表・周知

本計画は八千代市ホームページで公表し広報媒体などにより周知します。

### (3) 個人情報の保護

特定健康診査等に関わる個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及びこれに基づくガイドラインなどを踏まえて対応します。またレセプトデータを含む医療情報についても関係法令やガイドラインに基づき個人情報の保護に十分に配慮して取り扱います。

八千代市における個人情報管理については「個人情報の保護に関する法律」その他個人情報保護に関する法令などに基づいて行います。

また本計画に係る業務を外部に委託する際も同様に取扱われるよう委託契約書に定めるものとします。

### (4) 健康づくり課との連携

#### ① 各種検(健)診などとの連携

特定健康診査の実施に当たっては、健康増進法に基づき実施する検(健)診などとも可能な限り連携して実施するものとします。

#### ② 健康づくり課主催事業との連携

特定健康診査・特定保健指導は、40歳から74歳までの被保険者が対象ですが、生活習慣病予防のためには、若い世代へ働きかけ、生活習慣病のリスクの周知や日々の生活スタイルを見直していくことが重要になります。そのためには、関係部署が実施する保健事業とも連携しながら、生活習慣病予防を推進していきます。

健康づくり課では、八千代市国民健康保険被保険者を含むすべての市民を対象に、生活習慣病予防に関する食・運動・歯と口腔の健康・こころの健康・禁煙などの日常生活で実践できるような情報提供を行い、健康に良い生活習慣へ改善する契機とするため、相談・講座などの事業を実施します。

### (5) 地域包括ケアに係る取り組み

医療・介護予防・住まい・生活支援など暮らし全般を支えるための直面する課題などについての議論を地域ケア会議などで実施するものとします。

参照：計画の評価・見直しなど（本計画P77）

第3期八千代市保健事業実施計画(データヘルス計画)  
ダイジェスト版

令和6年度(2024)～令和11年度(2029)

令和6年(2024)3月発行

編集・発行  
住所

八千代市 健康福祉部 国保年金課  
〒276-8501  
千葉県八千代市大和田新田312-5  
047-483-1151 (大代表)

電話